

演題番号 051005

| | |
|-------|-------------|
| 演 題 名 | 残薬についての実態調査 |
|-------|-------------|

県 連 名 東 京
 事 業 所 名 多摩薬局
 発 表 者 高橋 伴典 薬剤師
 共同研究者 手崎 碧 薬剤師 中澤亜紀子 薬剤師
 石井 亮子 薬剤師 佐々木敬子 薬剤師

◆目的

A薬局の患者層は高齢者が中心であり、服用する薬の種類も多く毎日継続して服用を続けていくのは大変なことだと思われる。日頃服薬指導にて残薬の有無の聞き取りを行っているが、実際に患者が規則的に服用できているかを追っていくのは難しい場合もある。そこで残薬状況を調査し、患者の残薬に対する意識や実態を把握することで服薬指導に活かし、コンプライアンスの向上を図る。また、近年医療費の大幅な増大が叫ばれているため、残薬を減少させることにより医療費削減へつなげたい。

◆対象・方法

対象：A薬局へ来局した患者195名（無作為）
 期間：2012年8月7日～9月7日
 方法：アンケート調査（記入）
 調査項目：残薬の有無・医師からの残薬確認の有無・薬が残る理由・残薬の処理方法・残薬を医師に伝えているか等

◆結果

- <アンケート回答者全員（n=195）>
- ①残薬の有無
 - ・残薬あり=141名（72%） ・残薬なし=54名（28%）
 - ②年齢層は40～80代が中心。
 - ③医師からの残薬の確認の有無
 - ・確認あり=114名（59%） ・確認なし=73名（37%）
- <残薬ありと回答した方への質問（n=141）>
- ④医師へ残薬があることを伝えているか
 - ・伝えている=85名（60%） ・伝えていない=48名（34%）
 - ⑤薬が残った理由
 - ・飲み忘れ 54名（34%） ・症状改善 30名（18%）
 - ⑥残った薬をどうしているか
 - ・そのままにしている 62名（46%） ・廃棄 28名（21%）

◆考察・まとめ

・残薬が発生する理由は、飲み忘れが一番多い結果となった。一つの薬を忘れやすいのか・なぜ忘れてしまうのか等を聞き取り、患者にコンプライアンスの改善を働きかけることが重要である。
 ・残薬がある事を医師が知らない状況が約2割もあった。薬剤師は積極的に医師への疑義照会やお薬手帳などを通して、残薬についての日数調節などの情報や、患者の生活スタイルに合わせた処方提案を行いたいと考える。

| | | | | |
|-----------------|---------------------------|--------------------------------|-----------|--------------|
| キ ー ワ ー ド | 1. 残薬 | | | |
| | 2. 薬を飲み忘れる理由 | | | |
| | 3. 医師の残薬確認 | | | |
| 事業所 規 模 | 職 員 数 | 31名 | 入院・入所者数 | 名/日 |
| | 外 来 数 ※調剤薬局は 処方せん枚数 | 320名/日 | 訪 問 件 数 | 25名 |
| 資 料 請 求 先 | 事 業 所 名 | 多摩薬局 | | |
| | 住 所 | 190-0022 立川市錦町1-23-1 吾妻ビル1階 | | |
| | 電 話 番 号 | 042-528-6100 | F A X 番 号 | 042-528-6117 |

演題番号 071002

| | |
|-------|-----------------------------|
| 演 題 名 | インスリン針の交換回数と針の処方本数についての実態調査 |
|-------|-----------------------------|

県 連 名 東 京
 事 業 所 名 錦町薬局
 発 表 者 佐保田直明 薬剤師
 共同研究者 伊藤 倫子 薬剤師 中嶋 祥史 薬剤師
 伊藤 美夏 薬剤師

<目的>

インスリン投与患者ではインスリン投与回数に見合った注射針（以下、針）の処方が一般的だが、異なる数量の処方せんの場合も多い。どのような理由によるものかアンケートによって調査を行った。

<方法>

2012年7月24日から8月31日まで105名からアンケートをとった。設問内容はインスリン使用期間、コンプライアンス自己評価、医療機関での針の交換指導の有無、針の交換時期と項目（A）・（B）、針の劣化の認識、針の廃棄の方法である。

* Aは針の交換時期で毎回と回答した患者が対象、Bは針の交換時期で毎回以外と回答した患者が対象で針の交換する理由についてアンケートをとった

<結果>

インスリン開始5年未満の患者のうち97%が毎回交換すると回答があり、そのうち85%は適正本数の処方であった。開始5年以上の患者では92%は毎回交換すると回答があり、毎回交換する人の83%は適正な処方であった。17%は少なめと処方なしが同程度であった。インスリン注を忘れる患者は針の処方は少なめな傾向にあった。

<考察>

1. 5年未満の使用歴患者の30%では針の劣化についての認識が弱いことが示された。
2. 今回調査した患者の自己負担割合は、0および1割負担と3割負担がほぼ同数であった。3割負担の患者のうち半数が、少なめ処方および処方なしで占められていた。毎回交換すると回答しつつも、針も負担金があることから、節約のため毎回交換していない患者もいると思われた。
3. 注射を忘れる患者で針の処方がないことは、コンプライアンスが悪い、針を毎回交換していないことが推測される。
 今後上記の結果を踏まえ、筆者の勤務薬局では強化月間を設けるなどして、インスリン治療目的の確認、針の取り扱いについて、シックデイ対策について、薬局窓口での服薬ケアを定期的に行っていくたい。

| | | | | |
|-----------------|---------------------------|-----------------|-----------|--------------|
| キ ー ワ ー ド | 1. インスリン治療 | | | |
| | 2. 注射針 | | | |
| | 3. コンプライアンス | | | |
| 事業所 規 模 | 職 員 数 | 10名 | 入院・入所者数 | 名/日 |
| | 外 来 数 ※調剤薬局は 処方せん枚数 | 名/日 | 訪 問 件 数 | 名 |
| 資 料 請 求 先 | 事 業 所 名 | 錦町薬局 | | |
| | 住 所 | 立川市錦町1丁目17番地15号 | | |
| | 電 話 番 号 | 042-523-5894 | F A X 番 号 | 042-523-5165 |

演題番号 G1008

| | |
|-------|-------------------------------|
| 演 題 名 | 障がい者への情報提供の取り組み～調剤薬局における点字導入～ |
|-------|-------------------------------|

県 連 名 東 京
 事 業 所 名 本町薬局
 発 表 者 鈴鹿 智紘 薬剤師
 共同研究者 綾野ゆかり 事務 生原友紀子 薬剤師
 内藤かおり 薬剤師 古川 広志 薬剤師

【はじめに】

当薬局では2011年からバリアフリー化をめざした試みを行っている。手すりなど、様々なとりくみをはじめ、視覚障がい者に対する点訳(点字による情報提供)を実践してきた。今回は、薬袋、手帳シールなどの点訳を主体とした一事例を紹介し、今後の課題を検討したので報告する。

【事例】

対象患者は、幼少期に失明した30代男性。以前は一包化し情報提供は墨字(印刷物)を用いていた。今回、点字を導入したきっかけは、従来の情報提供方法では限界があると感じたためである。

<導入目的>

必要な情報をいつでも患者本人が確認できるようにしたい。

①医薬品名を確認できる

口頭、墨字では記憶に頼るしかない。この患者の理解力は高いが、薬品名を1文字も漏らさず完璧に覚えるのは困難である。

②処方日、調剤日を確認できる

以前に期限の切れた注射薬を使用し入院した経歴があった。同様の処方を長期で継続しており、いつ処方、調剤されたものか判別がつかない。

<到達点>

点訳により、いつでも患者本人が確認できるようになった。現在は、点字の可能なテプラを用いて、より効率的、正確に点訳をすると同時に、服薬指導のみならず、局内通信、案内など、幅広く点訳を行っている。また、墨字と点字の併記など、ユニバーサルデザイン(障がいの有無に関わらずに利用できる)にも心がけている。

【考察】

要望にそって点字による情報提供を行うことで、患者により多くの信頼を得ることができた。全ての患者は同じサービスを受ける権利がある。この「同じ」とは「画一化した」という意味ではなく、患者個々に合わせることで「結果的に患者が受けるサービスが同等」となるということである。今後は点字以外にも、手話や段差など改善する余地はまだあるので、障がいの有無に関わらず、すべての人に寄り添うことが出来、より信頼される薬局になるように努力していきたい。

演題番号 G2004

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 演 題 名 | 小児マイコプラズマ感染症に対するトスフロキサシン(TFLX)の使用後調査 |
|-------|--------------------------------------|

県 連 名 東 京
 事 業 所 名 多摩薬局
 発 表 者 石井 亮子 薬剤師
 共同研究者 大久保節士郎 医師 佐々木敬子 薬剤師

【目的】

近年マクロライド系薬(以下MLS)に耐性を獲得したマイコプラズマが急激に増加しており、治療に苦慮することが多くなっている。そのような背景を踏まえ、当薬局対応小児科においてはニューキノロン薬(以下NQ)であるオゼックス細粒(以下TFLX)を2012年に1月に採用し、マイコプラズマ感染症に対し処方するようになった。今回、TFLXのマイコプラズマ感染症に対する使用状況を把握し、臨床効果と安全性について評価する。

【方法】

対象は2012年4月～12月までにマイコプラズマ肺炎またはマイコプラズマ感染症が疑われ、TFLXが処方された小児33例について、薬歴、また一部カルテを後方視的に検討した。

有効性の判定については、咳の軽減及び解熱が確認できた例を有効と判定した。

【結果】

年齢;11カ月～12歳、平均年齢5.4歳、8歳未満24例、8歳以上9例

初期治療でTFLXを使用した症例は23例、他剤抗生物質からの切り替え例は10例であり、そのうちMLS無効でTFLXに変更した例は7例であった。

<有効性>有効23例、無効1例、不明7例、判定不能2例

<安全性>嘔吐2例

【考察】

有効率74.2%(判定不能例は除外)、安全性については嘔吐2例のみであり関節痛、関節炎などの筋骨格系障害の副作用が出現した例はなかった。また、添付文書の適応は他剤無効時に限定されているが、今回の調査では約7割が初回使用であった。初回使用の理由は、MLSの高度耐性化だけでなく、当薬局対応小児科では、発熱後5日経過してからマイコプラズマ肺炎と診断されているものに限定して投与しているためであった。

今後、薬局においては治療の経過や体調を十分に聞き取り、確実な効果を得る為と耐性化防止のために服薬遵守が大切な事を患者に指導する必要がある。また、今回は症例数が少なく、NQ特有の副作用は見られなかったが引き続き副作用のフォローもしていきたい。

| | | | | |
|-----------------|---------------------------|-----------------------|-----------|--------------|
| キ ー ワ ー ド | 1. 点字 | | | |
| | 2. 情報提供 | | | |
| | 3. バリアフリー | | | |
| 事 業 所 規 模 | 職 員 数 | 5名 | 入院・入所者数 | 名/日 |
| | 外 来 数 ※調剤薬局は 処方せん枚数 | 45名/日 | 訪 問 件 数 | 5名 |
| 資 料 請 求 先 | 事 業 所 名 | 本町薬局 | | |
| | 住 所 | 184-0004 小金井市本町1-16-8 | | |
| | 電 話 番 号 | 042-383-3515 | F A X 番 号 | 042-386-1891 |

| | | | | |
|-----------------|---------------------------|--------------------------------|-----------|--------------|
| キ ー ワ ー ド | 1. マイコプラズマ | | | |
| | 2. マクロライド系薬耐性菌 | | | |
| | 3. トスフロキサシン | | | |
| 事 業 所 規 模 | 職 員 数 | 31名 | 入院・入所者数 | 名/日 |
| | 外 来 数 ※調剤薬局は 処方せん枚数 | 320名/日 | 訪 問 件 数 | 25名 |
| 資 料 請 求 先 | 事 業 所 名 | 多摩薬局 | | |
| | 住 所 | 190-0022 立川市錦町1-23-1 吾妻ビル1階 | | |
| | 電 話 番 号 | 042-528-6100 | F A X 番 号 | 042-528-6117 |